

(様式2)

平成27年度進学重点校学力向上事業実施報告書(指定校)

学校名 宮城県岩ヶ崎高等学校

1 学校の進学の現状について

(1) 4年生大学への現役進学状況(平成28年3月28日現在)

*すべて実数で記入すること。

	進学重点校学力向上事業					
	平成25年度 (H26.3卒業生)		平成26年度 (H27.3卒業生)		平成27年度 (H28.3卒業生)	
	合格者数	進学者数	合格者数	進学者数	合格者数	進学者数
国公立4年制大学	8	8	6	6	12	11
私立4年制大学	51	48	41	39	45	39

(2) 平成27年度(H28年3月卒業生)主な進学先

*具体的な大学名を記入し、大学名の後に(合格者数)を記入すること。

①国公立4年制大学
新潟大学(1) 宮城教育大学(2) 岩手大学(1) 山形大学(1) 秋田大学(1) 福島大学(1) 青森県立保健大学(1) 青森公立大学(1) 高崎経済大学(3) 名桜大学(1)
②私立4年制大学
東北学院大学(10) 東北福祉大学(4) 宮城学院女子大(5) 白鷗大学(4) 尚綱学院大学(8) 専修大学(1) 東京家政大学(1) 昭和薬科大学(1) 国土館大学(3) 文教大学(1) 大妻女子大学(1)

2 当事業実施による成果について(この3年間における成果)

当事業をスタートした時点での本校の進路指導はいわゆる受験指導だった。しかし、国公立大学合格者が2年連続して1桁になり、教員間で危機感を抱きはじめた。それまで本校では「総合的な学習の時間」を十分に活用している状態ではなく、低学年から進路意識を育てる指導が十分とは言えない状態であった。昨年より、「総合的な学習の時間」の取り組みを見直し、進路意識の高揚を目指した。今年度は国公立合格者がのべ13名(一般10名)と数年ぶりに2桁台になった。不合格に終わったものの東北大学のA0入試を受験した生徒が2名いたことも成果のひとつである。また、今年は新たに年2回の進路対策検討会を実施して情報の共有化を図り、一人の生徒を全員で見えていくという体制を作ることができた。また、今年度3学年の新たな取り組みとして、朝学習の時間に読書週間を設けたり、クラスでディスカッションやディベートを実施し、生徒の思考力・表現力の向上につながったようである。こうした試みを次年度はより進化した形で継続したい。何より継続したいのは、「最後まであきらめない」という岩ヶ崎高校のスタイルである。

3 平成27年度に実施した個別事業について

事業項目	ねらい	実施状況	成果と課題
進路指導 ワークショップ	進路指導における課題の把握、特に今年度は課外授業やセンター試験前後の問題点を把握し、次年度の指導に生かす。	年2回進路指導担当者が参加した。各学校の課外の持ち方やセンター試験前後の問題点についてのワークショップを行い、新しい入試を視野に入れたアクティブラーニングについての講義を聞く。	特にアクティブラーニングの講義はこれからの授業スタイルを学ぶという点で非常に勉強になった。次年度は校内研修会のテーマにしたい。
授業改善研修会	教員の指導力向上を図る。	仙台市内予備校での講座に英語と化学2名の若手教員が参加。	募集枠1名のところに熱意ある2名が参加。知識伝達の授業ではなく生徒に考えさせる授業のあり方を学ぶことができた。
授業構成法講座	教員の指導力向上を図る。	仙台市内予備校での講座に国語科中堅教員1名が参加。	センター試験や二次試験の題材を用いた模擬授業を受けることで指導上のポイントを学ぶことができた。
学習習慣診断カード記入による家庭学習定着指導	家庭学習の定着と学習計画の作成・見直しを行い、学力の向上を図る。	担任の先生方が毎実施。二者面談・三者面談以外でも生徒の学習状況、さらには生活状況の把握に努めることができた。	家庭での学習習慣の確立に役立っている。今後も継続して取り組む。
大学出前授業	大学の講義を視聴することで、進路意識や学習意欲の高揚を図る。	2・3年生を対象に7講座で実施した。大学の先生の講義を直接聞くことが進路選択にも生かされた。	次年度も継続して実施したい。
指定校合同合宿	指定校の生徒が合同合宿することにより、互いに切磋琢磨しあい、学習意欲・進路意識の向上を図る。	8月上旬に東北自治総合研修センターにて実施。築館高校と本校併せて約100名の生徒が参加。(本校生徒は41名参加)。互いに受験生としての自覚を持つことができた。また、長時間の自学自習を経験でき、有意義であった。	自学自習のプログラムを両校の先生方で検討したい。

他校視察	高い進学実績を誇る高校の授業や進路指導のあり方を視察することにより、進学指導に役立てる。	本校教員3名が岩手県立久慈高校と福岡高校を視察。授業を参観する他に、進路指導の取り組みについて説明を受けた。	低学年から進路に対する意識付けを図る取り組みが段階を踏んで実施されていること、上位層の指導が学校の枠を超えて行われていることが分かり本校でも取り入れたい。
進路講演会	外部講師による話を聞くことにより、進路意識を高める。	1年生は10月と12月に、2年生は10月に実施。講師はベネッセ高校事業部の方と富士大学の鈴木晃彦教授。	大学入試の仕組みや動向について理解することができた。元県立高校校長の鈴木晃彦教授の講演は自らの実践に基づいた生徒の心に響く内容。次年度もお願いしたい。
模擬試験分析会	生徒の実態把握により、適切な進学指導ができるようにする。	新入生のスタディサポートの分析会と7月と11月の模擬試験の分析会を実施。学習到達度の把握ができ、進路の選択や受験科目選択に有効であった。	細かく分析することにより、苦手科目の克服に役立てることができた。
進路対策検討会	一人ひとりの生徒の情報を共有し、適切な志望先・受験スタイルの決定に役立てる。	4月下旬と7月上旬の2回実施。3学年教員と進路指導部教員、教頭で実施。	初めて3年生を担当する教員はもちろんであるが、経験者も余裕をもって二者面談や三者面談に臨むことができた。次年度も継続したい。
予備校講師による学習会	外部講師を招き、大学受験対策として、センター試験の得点率向上を目指す。	12月に2年生・3年生の希望者が、英語と数学の2教科の講習を受講。各学年とも受講者が40名を超えた。(昨年よりも増加)	3年生にとっては最後の追い込みであり、2年生にとってはセンター試験の問題にトライする良い機会となった。
栗原市内中学校 高校合同合宿	地域の生徒は地域で育てるという理念のもと、地域の中高生の進路達成支援一環として実施。	8月12日から3泊4日で、国立花山青少年自然の家で実施。中高生併せて162名参加。(中学生25名)進路講演、講義、自学自習が主な内容で大学生サポーターも活用。	中学校と高校の勉強合宿という初の試みであり、場所や日程等については検討の余地があるものの、本校の参加生徒はおおむねよく頑張っていた。

進路体験発表会	2年生の進路意識の高揚と明確化を図る。	進学、就職(公務員)の進路を達成した3年生から参考になる体験談を聞く。11名の3年生が体験談を話す。	3年生の熱のこもった話を真剣に聞き、入試に対する危機感をもつことができたようである。今後も継続して実施したい。
各種校内コンクールおよび朝学習	語彙力、表現力、発想力等の向上を図る。	全学年を対象に漢字コンクール(年9回)、数学コンクール(年2回)、小論文コンクール(年2回)を実施。	特に漢字コンクールはクラスマッチとして参加し楽しんで取り組んでいるようである。継続して実施したい。
小論文学習会	小論文の構成、資料読み取り等の講義を通し、記述力の向上および小論文指導の向上を図る。	外部講師を招き、年2回実施。(1年生は12月、2年生は9月に実施)	総合的な学習の時間の小論文指導に生かすことができた。また、A0・推薦指導に向けての準備として取り組むことができた。
ディベート、討論会の実施	生徒の思考力・表現力の育成。	3学年でホームルームの時間に実施。	各クラスとも白熱した議論ができた。今後も継続したい。